海外の話題

ガジュマル

北京駐在員事務所　首席代表　米坂　樹紀

先般、休暇で訪れた福建省の島を散策していたら樹齢 300 年のガジュマルの樹が倒壊していた。一昨年の台風の影響により倒壊したという。ガジュマルは亜熱帯～熱帯に分布するクワ科の常緑樹で根を張る力が強いことから古くから防風林、防潮林としても利用されており、台風にはめっぽう強い筈である。私が目撃した倒壊ガジュマルも 300 年もの間、無数の台風に耐えてきたが、ついに耐え切れないほどの強烈な台風に出くわしたということなのであろう。

想定外あまたの颱風しのぎし樹

ガジュマルは力強く成長し、大きく広がった枝葉は南国の強い日差しをさえぎり、木陰には人が安らげる場所を提供する。そのため、亜熱帯エリアでは町のシンボルになることが多い樹である。福建省に限らず、沖縄県、鹿児島県でも近年、町あるいは学校のシンボルとなっていた樹齢 100 年以上のガジュマルが倒壊したというニュースがよく聞かれるようになった。ガジュマルが高齢化して樹力が衰えたこともあるのだろうが、やはり自然災害の激甚化と関係しているような気がする。

キジムナー遊び庭にも温暖化

私が訪れた福建省の島では倒壊したガジュマルは町のシンボルというわけではなかったけれども、倒壊してニュースメディアに採り上げられたことで、「倒壊ガジュマル」として観光スポットになっていた。早速、倒壊したガジュマルの前には案内看板が掲げられ、倒壊ガジュマルをバックに観光客が記念写真を撮っていく。倒れたことを逆手に取って観光資源化していく島の人々の生命力を感じずにはいられなかった。

倒れてもタダでは起きず倍返し

さらに驚いたのは、倒壊ガジュマルは倒壊しても尚もガジュマルは成長を続けているということ。生き残った根から養分を吸収し、今も新たな枝葉を育んでいるガジュマルのみなぎる生命力には感動を覚えた。

生命をつなぐ老木魂震え

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます